

# 第143回～第151回

## ☆放送局及び期間☆

放送局	期間
近畿放送	昭和46年8月～46年9月

司会: 宇井昇 (第143回～145回)

月原史郎(第146回～151回)

## ☆放送リスト凡例

①サブタイトル・放送回    ②出演者  
③曲目                            ④放送概要

・年月日は、近畿放送の放送日を記載。

・「①サブタイトル」は木村孝雄自費制作LP同封③に準拠。

・「③曲目」は京都新聞のラジオ欄の記述を元にした。そのため、放送されたすべての曲目を網羅しているわけではない。また、放送された音源の歌唱者が明示されている場合のみ、括弧書きで歌唱者名を付した。

・「④放送概要」は京都新聞のラジオ欄の記述を元にした。

昭和46年

昭和46年8月3日

①船と波止場 #143

②

③「人生航海」(東海林太郎)、「夜霧の波止場」(霧島昇)、「玄海の月」

④ 今までの人物中心で構成した内容を一新して、なつメロをジャンル別に分類して送る。

今夜から3週にわたっては、港と船を歌った曲を集め、題して「人生航海」。以前放送した時の東海林太郎の声を聞きながら「玄海の月」などを送る。

司会は引き続き宇井昇が担当する。

8月10日

①船と波止場 #144

②

③「俺は船乗り」(上原敏)、「月のデッキで」(霧島昇)、「島の船唄」(田端義夫)

④ 今夜は先週に引き続いて「港と船」を歌った曲を集めての特集。題して「人生航海」その2を送る。

田端義夫とは切っても切れない仲の清水みのるの話を織り込んで送る。

8月17日

①船と波止場 #145

②

③「雨の夜船」(東海林太郎)、「港シャンソン」(岡晴夫)、「かえり船」(田端義夫)、「あこがれのハワイ航路」、「かよい船」

④ 新しい企画で送る第3夜の今夜は港と船「人生航海」のその3。

まず東海林太郎の「雨の夜船」、そして岡晴夫の「港シャンソン」、田端義夫の「かえり船」と続く。その後以前放送した清水みのるの声を聞く。

8月24日

①誰か故郷を想わざる #146

②

③「山は夕焼」(東海林太郎)、「湖底の故郷」(東海林太郎)、「誰か故郷を想わざる」(霧島昇)

④ 今夜と来週の2回にわたってふるさと特集、題して「誰か故郷を想わざる」。故郷は誰にもあるが、ふとさびしい時に思い出す故郷の山や河、それをテーマにした曲を集めて送ろうというもの。

まず最初に送るのが東海林太郎の「山は夕焼」。昭和9年の松竹映画「山は夕焼」の主題歌として発売された作品。その他を原盤で送る。

この日の京都新聞夕刊の紹介記事には司会者の情報は載っていないが、第147回の放送日の夕刊には「D・Jは月原史郎アナ」と記載されている。サブタイトルが第146回と147回とで同一であることから、この放送回より司会が月原史郎に変わったものと思われる。

8月31日

①誰か故郷を想わざる #147

②

③「バタビヤの夜は更けて」(灰田勝彦)、「異国の丘」、「白い花の咲く頃」

④ 先週に続いてふるさと特集。題して「誰か故郷を想わざる」その2を送る。第二次大戦中、戦地からはるか故郷を偲んでいるような曲が作られたが、中でもヒットしたのが灰田勝彦の「バタビヤの夜は更けて」—あゝ今夜も見る夢は、きっとお母さんの夢だろう…灰田勝彦のセリフ入りのこの歌は戦地でもよく歌われたものである。

この曲を筆頭に今夜は「異国の丘」「白い花の咲く頃」他を送る。

9月7日

①赤い夕日の満州で #148

②

③「曠野を行く」(松平晁・豆千代)、「満州想えば」(音丸)、「国境の春」(岡晴夫)

④ 今夜と来週の2回にわたって、満州を主題にした曲を集めて送る。題して「赤い夕日の満州に」。

昭和9年に満州国ができて、夢とロマンを求めて多くの人々が、荒野開拓という名のもとに渡満したが、それとともに数々の歌も生まれた。異郷の地で故国をしのび、故郷と違って生まれた数々の歌を送る。

9月14日

①赤い夕日の満州で #149

②

③「心のふるさと」(結城道子)、「ハルビン旅愁」(東海林太郎)、「夜霧の馬車」(李香蘭)

④ 先週に続いて満州特集。昭和7年の満州建国以来、満州ブームが続き、流行歌の世界でも続々と満州をテーマにした曲が発表された。

その中から今夜は珍品中の珍品レコードになっている昭和14年12月ポリドールから発売された結城道子の「心のふるさと」を原盤で聞く。

9月21日

①道中旅がらす #150

②

③「旅笠道中」(東海林太郎)、「追分道中」、「妻恋道中」、「旅姿三人男」

④ 今夜と来週は股旅特集、題して「旅がらす道中ぐらし」。

股旅ものの最初は昭和4年に発売された日活映画「沓掛時次郎」の主題歌「沓掛小唄」で、それ以後次々に道中ものが出たが、その中で最初にヒットしたのが「東海の顔役」の主題歌で昭和10年に発売された東海林太郎が歌う「旅笠道中」であろう。

9月28日

①道中旅がらす #151

②

③「親恋道中」(上原敏)、「黄昏道中」(東海林太郎)、「峠しぐれ」(上原敏)

④ 先週に続いて股旅特集のその2。義理と人情を振り分けて旅から旅への渡り鳥。この姿が日本人の気持ちとぴったり一致して多くの股旅映画が作られ、また多くの股旅をテーマにした曲が作られた。